

A会場	B会場	C会場	D会場	E会場	F会場
<p>W01: 昆虫免疫夜話IV 世話人: 芳山三喜雄、横井翔、古川誠一</p>	<p>W02: 第24回日本ICIPE協会研究報告会: アフリカのベクター蚊対策 世話人: 足達太郎</p>	<p>W03: 第3回天敵利用を考える会~鹿児島大会特別企画 世話人: 大野和朗、安部順一郎、柿元一樹</p>	<p>W04: 殺虫剤作用機構談話会 世話人: 園田昌司・水口智江可・山本敦司</p>	<p>W05: 温故知新・昆虫生態学の先輩から学ぶ(5)内田俊郎大先輩と愉快な仲間達 世話人: 鈴木紀之、金子修治、安田弘法</p>	<p>W06: Current status of hemipteran bug researches in Asian countries (アジア各国における最近のカメムシ研究) 世話人: 田淵 研</p>
<p>W011 朝野 維起(首都大・理工・生命) 昆虫外骨格による「広義の防御」</p> <p>W012 ○小野雅弥・早川洋一・吉賀豊司(佐賀大・農) 非寄生性線虫 <i>Caenorhabditis elegans</i> による昆虫血球の捕食</p>	<p>W021 相内 大吾(帯畜大・GAMRC) 行動制御によるベクター蚊の微生物防除とその作用機構の解明に向けて</p> <p>W022 ○二見恭子¹・比嘉由紀子¹・胡 錦平¹・Eugenio Fonzi¹・Ana P. Abílio²・Manuel L. ázaro²・Steave Gowelo³・Dylo Pemba³・Saasa Ngonda⁴・Aaron Mweene⁴・澤 洋文⁵・Moses Zimba⁶・皆川 昇¹(長大¹・Instituto Nacional de Saúde²・Univ. Malawi³・Univ. Zambia⁴・北大⁵・Univ. Zimbabwe⁶) 南東アフリカにおけるネッタイシマカの集団構造</p>	<p>W031 ○柿元一樹¹・安部順一郎²・大野和朗³(鹿児島農総C¹・農研機構・西日本農研²・宮崎大農³) 「天敵を基幹としたIPMは農業経営にどのように貢献しているのか?」</p> <p>ゲストスピーカー オクラ経営者代表(鹿児島県指宿市): 前川信男氏 ピーマン(促成栽培)経営者代表(鹿児島県志布志市): 梅沢健太氏 茶経営者代表(鹿児島県志布志市): 鹿児島堀口製茶(有)堀口大輔氏</p>	<p>W041 平田 晃一(日本曹達(株)) 神経系作用化合物の作用機構と抵抗性</p> <p>W042 ○相澤美里¹・中井清裕¹・熊野明美¹・玉垣くみ江¹・渡邊丈夫²・園田 昌司³(香川農試¹・JA香川県²・宇都宮大学³) ネギアザミウマの異なる生殖系統の合成ピレスロイド剤抵抗性と分布に影響を及ぼす要因の解析</p>	<p>W051 ○鈴木 紀之¹・金子修治²・安田 弘法³(高知大¹・大阪環農研²・山形大³) 企画趣旨</p> <p>W052 岸 茂樹(国立環境研) マメゾウムシの種間競争の勝敗はなぜ変わるのか?</p> <p>W053 津田 みどり(九大院・農) マメゾウムシと寄生蜂の古典的モデル生物群集からの21世紀的提言: 環境変化と侵入生物がもたらす群集動態の変化を進化、性差、個体行動から解明する</p> <p>W054 嶋田 正和(東大・総合文化・広域) 温故知新-内田俊郎先生の研究の系譜と新たな地平の展開</p>	<p>W061 Ken Tabuchi (Tohoku Agr. Res. Ctr., NARO) Current status of hemipteran bug researches in Asian countries: quick introduction</p> <p>W062 ○Md. Abdul Alim・Md. Alamgir Hossain (Entomol., HSTU) Occurrence and development of <i>Riptortus pedestris</i> on five mungbean varieties</p> <p>W063 ○Un Taek Lim・Naresh Dangi (Andong Nat. Univ.) Development of conservation and microbial biocontrol tactics against <i>Riptortus pedestris</i> in Korea</p> <p>W064 ○Kazunori Matsuo¹・Akihiko Takahashi²・Ken Tabuchi²(Kyushu Univ.¹・Tohoku Agr. Res. Ctr., NARO²) Exploration for major egg parasitoids of <i>Plautia stali</i>, <i>Halyomorpha halys</i> and <i>Glaucias subpunctatus</i></p>

A会場	B会場	C会場	D会場	E会場	F会場
					<p>W065 O Doo Hyung Lee · Hong Geun Kim · Minhyung Jung · Soowan Kim · Jung- Wook Kho · Aram Sim (Gachon University, South Korea) Behavior-based research on <i>R.</i> <i>pedestrus</i>: from basic biology to its implication for pest management</p> <p>W066 Yoshitomo Kikuchi (AIST Hokkaido) Microbial symbiosis in stinkbugs: Current knowledge and perspectives</p>

G会場	H会場	I会場	J会場	K会場	L会場
<p>W07: 微小害虫忌避剤(殺虫から制虫へ) 世話人: 安部洋、北村登史雄</p>	<p>W08: 果樹の難防除研究会~クビアカツヤカミキリ 世話人: 中秀司、上地奈美、外山晶敏</p>	<p>W09: Frontier of insect symbiosis studies 世話人: 安達鉄矢、深津武馬</p>	<p>W10: KAMEMUSHI TODAY 2018 -カメムシ共生細菌スペシヤル- 世話人: 松浦優</p>	<p>W11: フシダニ類と媒介ウイルス病の生態と防除 -シソサビダニとモザイク病- 世話人: 久保田健嗣、広瀬拓也</p>	<p>W12: 公共データベースを利用した昆虫のデータ解析 世話人: 横井翔、仲里猛留</p>
<p>W071 ○櫻井 民人¹・千秋 祐也¹・安部 洋²・富高 保弘³・大矢 武志⁴・松浦 昌平⁵・三富 正明⁶・腰山 雅巳⁷・津田 新哉¹(農研機構中央農研¹・理研BRC²・九沖農研³・神奈川農技セ⁴・広島総研農技セ⁵・Meiji Seika ファルマ⁶・日本ゼオン⁷) PDJIによるアザミウマ忌避と媒介ウイルス感染抑制</p> <p>W072 大矢 武志(神奈川農技セ) トマトにおける忌避剤(制虫剤)による総合防除の体系化の実証と今後の展望</p> <p>W073 ○加嶋 崇之¹・高野 梓¹・上宮 健吉¹・三谷 滋¹・吉田 潔充¹・大西 純²・北村 登史雄²・松浦 昌平³・有本 裕⁴(石原産業株式会社¹・農研機構²・広島総研農技セ³・理研⁴) ベミデタッチ[®]乳剤(アセチル化グリセリド)でのコナジラミ類の行動制御</p>	<p>W081 ○中野 昭雄・渡邊 崇人(徳島農総技セ)徳島県内モモ産地における被害拡大の状況とその対策について</p> <p>W082 ○加賀谷 悦子・浦野 忠久(森林総研)クビアカツヤカミキリの侵入と被害の拡散</p>	<p>W091 ○Martha S. Hunter¹・Corinne M. Stouthamer¹・Marco Gebiola²・Evelyne Mann³・Stephan Schmitz-Esser⁴(U of Arizona¹・U of Calif²・U of Vet Med Vienna³・Iowa State U⁴) Comparative biology of reproductive manipulation by <i>Cardinium</i></p> <p>W092 ○Einat Zchori-Fein¹・L. Iasur-Kruh²・O. Bahar¹・O. Lidor¹・V. Naor³(ARO, Israel¹・ORT Braude, Israel²・Shamir Institute, Israel³) Insect symbionts as bio-control agents against plant pathogens</p>	<p>W101 細川 貴弘(九大・理)カメムシ上科における共生細菌の垂直伝播機構および共生細菌の置換実験</p> <p>W102 伊藤 英臣(産総研・生物プロセス)土が虫を育む:ヘリカメムシ上科の共生系から見えた昆虫と土壌の隠れた関係</p> <p>W103 ○Kuechler Stefan・松浦 優(TBRC, Univ. Ryukyus) Evolution of bacteriome-associated symbiosis in lygaeoid bugs (ナガカメムシ上科)</p>	<p>W111 ○下八川 裕司¹・中平 知芳^{1,2}・岡田 知之^{1,3}・沖 友香¹・清遠 亜沙子¹・広瀬 拓也¹・下元 満喜¹・森田 泰彰¹・島本 文子¹・谷岡 賀子⁴・下元 祥史¹(高知農技セ¹・現:高知幡多農振セ²・現:高知県産産課³・高知中央東農振セ⁴) シソサビダニおよびシソモザイク病の防除マニュアルの開発</p> <p>W112 ○久保田 健嗣¹・宇杉 富雄¹・千秋 祐也¹・富高 保弘²・津田 新哉¹(農研機構中央農研¹・農研機構九沖農研²) シソモザイクウイルスの生態</p> <p>W113 ○恒川 健太¹・武山 桂子¹・堀川 英則¹・伊藤 涼太郎^{1,2}・市川 耕治¹・鈴木 良地¹・坂 紀邦¹(愛知県農業総合試験場¹・現:カーターセル株式会社²) 愛知県におけるシソサビダニ・シソモザイク病の防除技術の開発とその実証結果</p>	<p>W121 仲里 猛留(DBCLS)公共データベースにみる昆虫におけるNGSの利用</p> <p>W122 坊農 秀雅(ROIS, DBCLS) 公開されているRNA-seqデータを使い倒すには?</p>

G会場	H会場	I会場	J会場	K会場	L会場
<p>W074 ○上船 雅義¹・吉田 健吾²(名城大農¹・岐 阜県西濃農業普及課²) PDJIによる害虫防除 - 天敵誘引や害虫パ フォーマンスの視点 から-体系化の実証と 今後の展望</p>				<p>W114 ○多々良 明夫・上遠 野 富士夫・鍵和田 聡・武井 円(法政大 生命科学) シソサビダニ (<i>Shevtchenkella</i> sp.) の発生生態</p>	

A会場	B会場	C会場	D会場	E会場	F会場
<p>W13: 食料生産から考える花粉媒介昆虫 世話人: 滝久智、外山晶敏、前田太郎</p>	<p>W14: カイコと近縁蛾類におけるゲノム編集と系統保存-NBRPプロジェクトの取組み 世話人: 嶋田透</p>	<p>W15: アリをめぐる生物種間の相互作用 2018 (JIUSSI共催) 世話人: 坂本洋典、北條賢</p>	<p>W16: 殺虫剤抵抗性リスクコミュニケーション 世話人: 山本敦司、島克弥</p>	<p>W17: 水田の重要天敵ウンカシヘンチュウの可能性を探る(Ⅲ)~イネウンカ類天敵群アソシエイトの駆動因になりうるか? 世話人: 吉田睦浩、日鷹一雅</p>	<p>W18: 第2回作物の免疫力を生かした害虫防除を目指して 世話人: 田村泰盛、小林徹也</p>
<p>W131 ○滝久智¹・外山晶敏²・前田太郎³(森林総研¹・農研機構果樹茶²・農研機構生物機能³) 食料生産から考える花粉媒介昆虫: はじめに</p> <p>W132 ○園田昌司¹・神山光子²・戸田世嗣²・田中篤³・池田隆政³・中田健³・外山晶敏⁴(宇都宮大学¹・熊本県果樹研²・鳥取県園芸試³・農研機構果樹研究部門⁴) ナシ園における花粉媒介昆虫相の解明</p> <p>W133 ○横井智之¹・田中義弘²・河野勝行³・飯田博之³(筑波大院・保全生態¹・鹿児島県農業開発総合センター²・農研機構野菜花き研³) 果菜類における花粉媒介昆虫の実態解明にむけて-モニタリングシステムの開発-</p> <p>W134 田中義弘(鹿児島農総セ野菜研) 施設ニガウリにおけるミツバチ利用</p> <p>W135 小沼明弘(農研機構・農環研) 日本の作物生産における送粉研究</p>	<p>W141 ○伴野豊¹・福森寿善¹・藤井告¹・梶浦善太²(九大院農¹・信大繊維²) 実用化が進むカイコ及びエリサンの凍結保存の現状</p> <p>W142 ○木内隆史・張昊²・勝間進・嶋田透(東大農) カイコにおけるCRISPR/Cas9システムによる遺伝子ノックアウト</p> <p>W143 ○李允求・木内隆史・勝間進・嶋田透(東大・院農) エリサンにおけるゲノム編集の現状(2017年度版)</p> <p>W144 二橋美瑞子(茨大理) カイコ変異体を用いた昆虫の新規体色関連遺伝子の探索</p>	<p>W151 東正剛(北大地球環境) 「ヒアリに刺されても死なない」は本当か?</p> <p>W152 坂本洋典(早稲田大学) ヒアリ類と暮らす好蟻性生物たち</p> <p>W153 林彦宏(モンスターズアグロ) Using sniffer dogs to detect red imported fire ants, <i>Solenopsis invicta</i> Buren.</p>	<p>W161 山本敦司(日本曹達(株)小田原研) 殺虫剤抵抗性リスクコミュニケーションをはじめよう! - 論点整理 -</p> <p>W162 中島信彦(農研機構生物機能) 薬剤抵抗性害虫の管理技術-技術導入の課題</p> <p>W163 杉井信次(シンジェンタ ジャパン(株)) 日本における薬剤抵抗性管理: 生産現場への薬剤抵抗性管理の啓発をどうするか</p>	<p>W171 ○松比良邦彦・井上栄明(鹿児島農総C) 鹿児島県のヒメウンカ-近年の発生動向とウカハナチュウの発生実態-</p> <p>W172 三田敏治(九大院・農・昆虫) イネウンカ類の寄生蜂群集</p> <p>W173 松村正哉(九州沖縄農研) 水田における天敵利用の試みと今後の展望: イネウンカ類を対象に</p> <p>W174 ○日鷹一雅¹・永井一哉²・吉田睦浩³・星野滋⁴(愛媛大院¹・日植防岡山²・九冲農研³・広島農技セ⁴) ウンカシヘンチュウは水稻害虫天敵群アソシエイトの駆動因になるのか?</p>	<p>W181 萬屋宏(農研機構果茶研) 虫害抵抗性品種の育成に向けて-抵抗性検定法の開発、抵抗性要因の解明</p> <p>W182 ○松本由記子¹・服部誠²(農研機構¹・元・農生研²) ツマグロヨコバイ唾腺遺伝子解析</p>

G会場	H会場	I会場	J会場	K会場	L会場
<p>W19: 第48回ハダニ談話会 世話人: 岸本 英成、伊藤 桂</p>	<p>W20: これまでのバッタ研究を振り返る～田中誠二さん退職小集会～ 世話人: 徳田 誠、西出雄大、管原 亮平</p>	<p>W21: 視覚イメージを利用した害虫管理を学ぶ会～節足動物の視覚生理とその利用～ 世話人: 堀雅敏、弘中満太郎、八瀬順也</p>	<p>W22: 深化するガ類性フェロモンの真価 2018 世話人: 藤井 毅、櫻井健志</p>	<p>W23: カメムシ目の生物音響学: 振動による孵化から害虫防除まで 世話人: 高梨琢磨、立田晴記</p>	<p>W24: 虫たちは長い旅路の果てに何を見る?: 長距離移動性昆虫学の最新線 世話人: 藤井智久</p>
<p>W191 ○鹿子木 聡^{1,4}・猪口真帆²・池之上 祐紀³・津田 勝男⁴・坂巻 祥孝⁴・上室 剛⁵ (鹿児島農総セ茶業部¹・鹿児島大・院農²・鹿児島大・農³・鹿児島連大⁴・鹿児島農総セ大隅⁵) 農薬散布量を削減した茶園におけるカブリダニ類の個体数と種構成</p> <p>W192 有本 誠 (中央農研) 植物検疫で問題となるハダニ類の分子生物学的手法による識別</p> <p>W193 ○蔡 永海¹・伊藤 桂² (愛媛連大¹・高知大・農²) スゴモリハダニ属の繁殖様式に関する進化生態学的研究</p>	<p>W201 徳田 誠 (佐賀大・農) トノサマバッタの分子系統解析および寄生特異性</p> <p>W202 西出 雄大 (農研機構・生物機能) 生物研で行ったバッタ研究の3年間まとめ</p> <p>W203 管原 亮平^{1,2} (農研機構¹・学振²) バッタ研究を通して学んだ実験の進め方</p> <p>W204 田中 誠二 (農機大わし) 28年のバッタ研究をふりかえって</p>	<p>W211 針山 孝彦 (浜松医大) 節足動物の視覚を学び害虫の制御技術に活かしてサステイナブル社会の実現へ</p>	<p>W221 上原 拓也 (農研機構生物機能) 日本産スズメガの性フェロモン交信システムの多様性と進化</p> <p>W222 ○萑澤 拓也¹・並木重宏¹・関 洋²・藤井 毅³・石川 幸男³・加沢 和毅¹・神崎 亮平¹ (東大・先端研¹・東京薬大・生命科学²・東大院・農³) エビガラスズメにおける近縁種の性フェロモンの情報処理機構</p> <p>W223 ○塩田 裕介¹・櫻井健志¹・安藤 規泰¹・光野 秀文¹・大門 高明²・神崎 亮平¹ (東大・先端研¹・京大院・農・昆虫生理²) 雄カイコガの触角応答キネティクスと効率的なフェロモン源探索行動の解析</p>	<p>W231 ○遠藤 淳¹・高梨 琢磨²・向井 裕美²・沼田 英治¹ (京大・院理¹・森林総研²) きょうだいの振動は孵化の合図: カメムシの孵化と1齢幼虫の行動</p> <p>W232 ○高梨 琢磨¹・Skals Niels¹・Vogit Dagmar¹・大矢 武志²・猪苗代 翔太³・関根 崇行³・松井 康浩⁴・吉村 友汰⁵・小池卓二⁵ (森林総研¹・神奈川農技セ²・宮城農園研³・湘南メタルテック⁴・電通大⁵) 振動防除—振動を用いたコナジラミ類に対する新たな防除技術の開発—</p> <p>W233 ○八瀬 順也¹・高梨琢磨² (兵庫農技総セ¹・森林総研²) 振動によるコナジラミ類の密度抑制効果</p>	<p>W241 上杉 龍士 (農研機構・東北農研) コナガの長距離移動の実態と生態学的な意味</p> <p>W242 大庭 伸也 (長崎大・教育・生物) 大陸からの移動!? 長距離移動をしている(かもしれない)水生昆虫</p> <p>W243 大塚 彰 (革新工学セ) 長距離移動性ヤガ科害虫を対象とした生態学的研究の最新トピック</p>